



# 豊島区

面積	.....13.01km <sup>2</sup>
世帯数	.....176,816世帯
人口	.....283,595人 (うち外国人).....23,943人
予算	.....1,358億円
職員数	.....2,010人

## 歴史・見所・名所

豊島区は、昭和7(1932)年10月の東京市郡合併により、北豊島郡下にあった巣鴨町・西巣鴨町・長崎町・高田町の四つの町が統合され誕生しました。

「豊島」の由来は、古代律令制下の武蔵国の郡名にまでさかのぼることができ、万葉集にも「豊島郡」の地名が出てきます。この由緒ある地名を残したいという思いから、「豊島区」の名称が採用されました。

江戸時代には、江戸市街の郊外として農産物や庭木の栽培が盛んな農村地帯でした。「ソメイヨシノ」は、当時の植木職人が作り出した日本を代表する桜の品種で、染井村(現駒込)が発祥の地といわれています。明治から昭和初期までの近代化の中で鉄道や駅が開通・開業すると、市街地化が進むとともに、学習院、大正、立教大学の区内への移転が相次ぎました。昭和53(1978)年には、池袋のランドマークとなっているサンシャイン60がオープンするなど、都内有数の繁華街として成長し続けています。一方で、古き江戸・東京の雰囲気を残す地域も現存しています。東京で唯一の都電が街中を走り、大正時代を彷彿とさせる池袋モナルナスをはじめ、雑司が谷には明治の文豪夏目漱石らの眠る霊園や旧宣教師館、南長崎にはマンガの聖地「トキワ荘」、巣鴨ではおばあちゃん原宿として知られる巣鴨地藏通り商店街が旧中山道の雰囲気を醸し出すなど、魅力あふれる、歴史ある街並みが今でも楽しめます。

## 概要

豊島区は、23区の西北部に位置し、面積は13.01km<sup>2</sup>で23区中18番目の大きさです。

総人口は平成9(1997)年を底に増加に転じ、平成30(2018)年7月には40年ぶりに29万人を突破しました。令和4(2022)年4月1日現在では、新型コロナウイルス感染症の影響などから、28万3,595人となり、人口密度は1平方キロメートルあたり2万1,798人で、日本一の高密度都市です。

区内には鉄道5社13路線が走っており、池袋駅の1日の乗降客数は265万人(令和元(2019)年度時点)を超えるなど、交通網の発達したとても便利な街です。区を中心に位置する池袋駅周辺には、複数のデパートや商業施設、オフィスビルなどが集積しています。令和元(2019)年11月には、池袋を周遊する真っ赤な「IKEBUS」の運行が開始され、新たな魅力が備わりました。こうした副都心池袋の賑わいを区内の全地域へ波及させています。



**豊島区役所本庁舎**  
区民のみなさんに開かれた区役所をめざし、平成27(2015)年5月から業務を開始。土日通年開庁による行政サービスの向上のほか、区の生態や植生を生かした屋上庭園「豊島の森」の整備やテラス部分の緑化により、官民含めた全国環境対策モデルとなるような「グリーン庁舎」をめざしています。



**Hareza池袋**  
庁舎跡地を活用し、池袋の中心部に令和2(2020)年にランドオープンしたHareza池袋は、芸術文化劇場を中心とした「8つの劇場」と民間施設が位置する周辺エリア一帯の総称で、国際アート・カルチャー都市の顔となる、文化・にぎわい創出の拠点となっています。

## 主要課題

### ◆「国際アート・カルチャー都市」の実現

豊島区が目指す「国際アート・カルチャー都市」は、福祉や子育て、教育、安全・安心のまちづくりなどを基礎としています。そのうえで、多様な文化を享受し合い、人や文化が交わるにより新たな価値を生み出し、世界中の人々を魅了し続ける、にぎわいあふれる“ひと”が中心の誰もが主役になれるまちの姿です。

この都市像の実現に向けて「豊島区基本計画2022-2025」を策定し、新たな社会課題の解決に向けて、「SDGsの推進」、「DXの推進」、「参画と協働」の視点で、すべての施策の見直しを進めています。これにより、地域の持つ力と魅力を最大限に引き出し、まちの価値を向上させ、経済力を高めるとともに、地域への誇りと愛着を醸成し、「住みたい、住み続けたい、訪れたい」と思える持続発展するまちを実現します。

### ◆SDGs未来都市への取組み

豊島区は令和2(2020)年7月、世界共通の目標であるSDGsの達成に向け、先進的に取り組む自治体として、内閣府より「SDGs未来都市」に選ばれました。さらに先導的な取組み「自治体SDGsモデル事業」にも選ばれ、東京初のダブル選定という快挙を成し遂げました。

この快挙は、平成26(2014)年に23区で唯一、「消滅可能性都市」と指摘された豊島区が、ピンチをチャンスに変えながら、着実に持続発展都市としての歩みを進めてきた成果が結実したものです。“誰一人取り残さない社会”の実現を目指すSDGsの理念と豊島区が目指す都市像である「国際アート・カルチャー都市」は、まさに考えを一つにするものです。今後は、日本の推進力となる「SDGs未来都市」としての責務を果たすとともに、未来を創造する子どもたちのSDGs推進に力を入れるなど、地域全体を巻き込みながら「オールとしま」によるSDGsの実現を目指しています。

## 将来展望

豊島区は令和14年(2032)年に区制施行100周年を迎えます。これまで、誰もが主役となれる劇場都市のシンボル「H a r e z a 池袋」、防災拠点の「としまみどりの防災公園(愛称「IKE・SUNPAR K」)」、回遊から新たな出会いが生まれる真っ赤な電気バス「IKE BUS」、過去・現在・未来を表現した色彩で生まれ変わった「ウイロード」、さらには、豊島区からクールジャパンを世界に発信する「トキワ荘マンガミュージアム」など、まちの魅力や価値を高めるためのまちづくり事業を展開したことで、まちが大きく変わろうとしています。

豊島区は100周年に向け、これまでの変革の波を、さらに推し進め、新しい時代の扉を開こうとしています。誰もが安心して暮らせるまち、世界に開かれた「国際アート・カルチャー都市」の実現に向け、東京の中でも地域の魅力が際立つ、個性と存在感を発揮するまちづくりを力強く進めていきます。



トキワ荘マンガミュージアム  
かつて豊島区椎名町(現・南長崎)にあった「トキワ荘」の再現施設として、「マンガの聖地としま」の発信拠点となるミュージアムが令和2(2020)年7月開館しました。



としまみどりの防災公園(愛称「IKE・SUNPAR K」)  
造幣局跡地に約1.7haの豊島区最大の防災公園が令和2(2020)年7月に開園しました。防災機能に加えて、都心のオアシスとなる魅力的なカフェやコミュニティガーデンを民間事業者により運営しています。



IKE BUS  
令和元(2019)年11月に運行を開始した、池袋の四つの公園や新たな賑わいスポットをつなぐまちなか交流バス「IKE BUS」。車両は、ななつ星in九州などを担当した水戸岡鋭治氏がデザインしています。



としま文化の日  
豊島区は平成14(2002)年以降、一貫して文化によるまちづくりに取り組んできました。令和2(2020)年に、文化によるまちづくりを次世代に継承するため、11月1日を「としま文化の日」とする条例を制定しました。